

# 「おやこ一冊読書」のすすめ ～わがや・わたしの「宝本」～

## 宝本

県立図書館では、絆を深め、感動を味わい、自分を見つける大切な一冊を「宝本」と呼んでいます。宝本は、成長に応じて、次のように変化していきます。

### わがやの宝本

「なでなでな一で」  
にへいたもつ 作 わたなべさとこ 絵  
KADOKAWA

5歳の長兄と4歳の長女が9か月の妹に読んでくれる絵本です。

時には、どちらが先に読んであげるかで、けんかもありますが、本の内容にそって、頭をなでなでする姿に私たちも笑顔になります。

今では、家族の「宝本」です。

楽しみながら読み、感動することで生まれます。

- ・主人公になりきって、夢中で読める本に出会えたら・・・。
- ・心を揺さぶられる本に出会えたら・・・。
- ・びっくりするような新しい知識に出会えたら・・・。

### わたしの宝本

「レ・ミゼラブル 上 下」  
ヴィクトル・ユゴー 作 清水正和 編・訳  
福音館書店

貧しさで、空腹に耐えきれず、たった1本のパンを盗んだだけで、何年も何年も服役することになったジャン・バルジャンが、ある司教に助けってもらったところから物語は始まります。

ジャン・バルジャンは、司教の真心を厚く感じ、正直な人間として生きていきます。この本を通して、司教の素晴らしさはもちろんですが、ジャン・バルジャンのその後の誠実な生き方に、自分自身について改めて考えさせられます。

誠実な生き方や本当の愛について、心をゆさぶられる感動の一冊です。

おやこ一冊読書による、

おやこのふれあいの中で生まれます。

- ・親子で読んで、楽しいひと時を過ごせたら・・・。
- ・親子で感じたことを語り合えたら・・・。
- ・子どもが繰り返して読んでほしいと言ったら・・・。

### わたしの宝本

「フロプシーの子どもたち」

ビアトリクス・ポター さく・え いしいももこ やく  
福音館書店

僕が初めてピーターラビットの本を見つけたのは、学級文庫でした。小さくてきれいな本だなあといい、手に取ったのを覚えています。ピーターラビットの仲間たちがマグレガーさんにつかまらないかドキドキしながら読みました。

それから、ぼくは、少しずつピーターラビットのシリーズを読むようになりました。一話ごとに新しい仲間が登場してくるので、次の本を読むのが楽しくなります。

じっくりと読み、

自分を見つけることで生まれます。

- ・自分の生き方を見つけることができたなら・・・。
- ・自分の将来に夢や希望を持つことができたなら・・・。
- ・ものの見方、感じ方や考え方を深め豊かにすることができたなら・・・。

あなたの「宝本」は、どの本ですか？